

AIを活用したWell-beingのシナリオ分析と政策形成 — 岩手県をフィールドに —

近年、経済成長などの金銭的、物質的な豊かさだけでなく、幸福度や満足度などのWell-beingに着目した政策展開に注目が集まっています。

岩手県立大学、京都大学、(株)日立製作所の三者は、2020年に共同研究プロジェクトを立ち上げ、AI技術を活用することで地域のWell-beingが高まる理想的な将来シナリオを探索するためのシミュレーション手法を研究してきました。

セミナーでは、本プロジェクトの研究成果を報告するとともに、公共政策とWell-beingそしてAI分析に関する講演、本プロジェクトの基礎技術である日立京大ラボ開発の「政策提言AIシステム」の概要説明を行い、公共政策とWell-beingについて考えます。

プログラム

- 13:00 開会
- 13:00～ 挨拶・趣旨説明
- 13:05～ **講演「公共政策とWell-beingそしてAI」**
広井 良典（京都大学 人と社会の未来研究院 教授）
- 13:45～ **発表①「政策提言AIシステムの仕組みと活用」**
福田 幸二（株式会社日立製作所 研究開発グループ 主任研究員）
(休憩)
- 14:15～ **発表②「AI技術を活用したWell-beingのシナリオ分析と政策提言」**
和川 央（岩手県立大学 研究・地域連携本部 特任准教授）
- 15:00～ 全体質疑
- 15:30 閉会

登壇者略歴

広井 良典（京都大学 人と社会の未来研究院 教授）

専門は公共政策、科学哲学。千葉大学教授を経て2016年より現職。Well-beingに関する国や自治体の研究会の委員等を歴任。岩手県では「岩手の幸福に関する指標」研究会のアドバイザーを務めた。現在は「県民の幸福感に関する分析部会」のオブザーバーを務める。著書に『ポスト資本主義』、『人口減少社会のデザイン』など多数。

福田 幸二（株式会社日立製作所 研究開発グループ 主任研究員）

専門は複雑系科学、人口知能。博士（科学）。京大-日立の産学連携拠点である日立京大ラボにおいて政府・自治体にむけて政策検討を行う政策提言AIシステムを開発。超スマート社会(Society5.0)の実現および住民のWell-being向上を目標に各地の自治体で様々な実証に取り組む。

和川 央（岩手県立大学 研究・地域連携本部 特任准教授）

専門は公共政策、社会システム工学。博士（学術）、専門社会調査士。岩手県で幸福度指標の策定とWell-beingに着目した総合計画の策定に関わる。2020年より現職。現在は岩手県の「県民の幸福感に関する分析部会」委員を務める。